

子育て応援フォーラム

「地域で育む、 我が子・人の子・えひめの子」

【2009年2月28日 開催】

「みんなで育てたい、未来への使者」

「子育て支援」は、今日の最も重要な政策課題の一つです。少子高齢化に加え、一〇〇年に一度の経済危機に直面し、若い世代が子どもを安心して産み、育てられる環境整備が急務となっています。

そこで、私はプロジェクトを立ち上げ、志を持った地域の皆さんとともに、みんなが喜びを持って楽しく子育てができる社会、つくり

ついで話し合ってきました。その活動の一環として、二月に子育て応援フォーラムを開催しました。子育て支援の政府の責任者であり、自ら子育てに奮闘中の小渕優子・内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画）をお招きし、地域で活躍の皆様を交えて、パネルディスカッションを行いました。前向きで中身の濃い意見交換となりましたのでこ



“親しい友人のお子さん”

しおざき やすひさ 1950年生まれ。93年、衆議院議員に初当選。06年、内閣官房長官・拉致問題担当大臣。08年、自民党地球温暖化対策推進本部副委員長。

衆議院議員 塩崎恭久



おぶち ゆうこ氏 1973年生まれ。成城大学経済学部卒業後、(株)東京放送入社。04年、早稲田大学大学院公共経営研究科修了。98年、衆議院議員に初当選。08年、内閣府特命担当大臣(少子化対策、男女共同参画)

昨年九月に大臣を拝命して以来、最初は戸惑いもありましたが、今は私だからこそできる仕事をさせてもらおうと、全力で少子化対策等に取り組んでいます。私には一歳五か月の子どもがおり、お腹の中には三か月の赤ちゃんもいます。現役母親、現役妊婦として、自分自身が体験したいろいろな不都合とともに、現場の声を国にぶつけることで、様々な制度、仕組みの改善につなげていきたいと思えます。私はあらゆる機会をとらえ、少子化対策、子育て支

援こそ、国の最重要課題であると申し上げています。政府もそう位置づけてはいるものの、塩崎先生が言われるように、子どもにかけられる今の予算や制度、社会環境を考えると、本当に重要課題として取り組んできたのか、疑問を持たざるを得ません。

がみんなの問題になっていません。日本の将来を決める大切な問題であり、性別や年齢を問わず、国民みんなが、真剣に考えなければならぬ時に来ています。日本の出生率は一・三七です。(〇八年は一・三七に上昇)米が二・一、仏が二・〇二、英が一・九ですから、先進国の中で日本はかなり低く、日本は人口減少社会に入っています。四〇年後には人口が四〇〇〇万人減るとされています。その時の人口構造は〇歳から十六歳の子どもの

「現役母親」としての経験を国政に活かす

なんと十人に一人まで減り、街から子どもの笑い声が聞こえなくなるのです。

●安心して産める環境整備
若い人口が減ることは重く受け止めなければなりません。本当に子どもを産みたいと思う人が、安心して産める環境を整備することが重要です。

●経済支援
そのポイントとしては三つあり、一つは経済支援です。若い夫婦は、子どもにお金がかかるため、経済的理由で産み控えられられる方がおられます。そこで、できるだけ経済的負担を取り除こうと、平成二一年度当初予算にまず盛り込んだのが、妊娠から出産までの負担の軽減です。出産までには平均して十四回、妊婦検診に通いますが、一回で何万円もかかることもあり、病院には行きにくいのが実情です。しかし、これは母体と赤ちゃんの健康に関わる問題です。検診を受けられず担当医不在となるのが、救急妊婦の病院を回す一因ともなっています。

そこで、十四回の妊婦検診を無料化し、併せて出産育児一時金も四二万円に増額しました。今回の支援拡充により、お母さんは妊娠からその誕生まで、お財布を持つことなく安心して出産できるようになります。ただし、これで十分とは考えていません。今後、児童手当の拡充、中学生までの医療費無料化なども視野に入れながら、皆さんができるだけ負担を感じることなく子どもを産み、育てられる体制を整備していきます。

●保育環境の拡充
二つ目は、保育所など保育環境の拡充です。現在、待機児童は全国で二万人ですが、潜在的にはもっとおられるはず。働く女性はもちろん、未就業のお母さんも一日中、子どもと向き合うのは大変なことです。お母さんが子どもと一緒に育める地域サービスも含め、保育環境の整備は急務です。私たちは今回、安心・安全基金として一〇〇〇億円を積み、三年間に十五万人分の保育所等の整備に充てられるようにしました。このお金は児童数等に依りて地域に配分され、各自治

体は、保育所や児童クラブなど、それぞれの住民ニーズに合致した子育て支援策に使うこととなります。

●働き方の見直し
三つ目は、男性を含めた働き方の見直しです。仕事と生活をどう調和させていくのか、政策課題として取り組まれます。お母さんだけではなく、お父さんにも家庭のパートナーとして、同じように子育てに関わってもらうための見直しです。昔のおままだでは、女の子はお母さん、男の子はお父さん役でした。ところが今は、男の子がお父さんではなく、犬などのペット役をするそうです。お父さんは帰りが遅い、一緒に遊んでくれない、だからお父さんのようになりたくない。ペットはみんなに可愛がられて楽しそうだからという理由です。本当はお父さんのようになりたくないと思っほしい。そのためには、お父さんにもっと子どもに関わってもらいたいと願っています。

策、若い人の雇用の安定化など、総合的なケアが必要と考えています。また、不妊治療の問題は、塩崎先生にも随分前から取り組んでいただき、大変強いわけですが、先日は受精卵の取り違えという絶対あつてはならない医療ミスもありました。子どもをほしい人が安心して治療ができるよう、国としてもしっかりと情報把握、チェックしていくつもりです。

●国政の責任
私は、少子化対策、子育て支援では、男性が女性を引っ張っていただきたいと思っっています。この点、塩崎先生は実に頼りがいがあります。一見、そんなタイプに見えないし、確かに経済や金融等も得意分野ではありますが、子育て支援等にも並々ならぬ情熱をお持ちです。塩崎先生の携帯待ち受け画面には、お孫さんの写真が貼り付けられていて、先生の可愛い一面を垣間見た気がしました。これまで以上に少子化対策、子育て支援の応援団になっていただけるものと確信しています。

本聖子先生が産まれた当時の永田町は、議員が産産するなど考えられない世界でした。橋本先生が産休を取ろうと事務局に申し出たところ、その理由欄に「出産はなく、結局、「その他」扱いで、しかも「突発的事故」でお願いしますと言われたそうです。これをきっかけに自民党も規則を変更し、「出産」の項目を追加し、橋本先生のおかげで、私の「出産」が「突発的事故」にならずに済んだわけですが、とにかく不都合なことを一つひとつ地道に変えていくことが大事になります。とかく政治が何をしているのか見えないと厳しい指摘もいたたく中、私は現場の声、皆さんの声を最大限大切にしながら、少子化対策、子育て支援の分野でリーダーシップが執れるよう頑張っ参ります。

子育て支援こそ、男性がリーダーシップを!



「遊びとしつけ」セミナー
～子どもを伸ばす遊びのすすめ～
が、フォーラム21と同時開催されました。先生とマンツーマンで楽しい子育ての指導をいただきました。

講師
山本 真理子先生
"NPO遊びとしつけ推進会認定"
おもちゃ・子育てアドバイザー
大藤 佳子先生
愛媛育児カレッジ 顧問

■パネリスト

おぶち ゆうこ 氏
小 淵 優子氏
少子化対策担当大臣

なか むら かず のり 氏
中 村 和憲氏
松山市小中学校
PTA連合会 会長

とも かわ あや 氏
友 川 礼氏
あいナビステーション
社会福祉士

■コーディネーター

しお ざき やす ひさ 氏
塩 崎 恭久氏
衆議院議員 元内閣官房長官



●社会全体での
取り組みが不足
塩崎 ミニ集会などで若い
お母さんとお話をしますと、
皆さん、子育てではいろん
な悩みを抱えておられます。
私は官房長官時代、少子
化対策・子育て応援の総合

評価されにくいのが子育て
ですが、悩むお母さんも誰
かがわかってくれるだけで
頑張れるものです。地域の
中で、お互いに関わり合い、
支え合うというつながりが、
非常に大切になります。

友川 私の仕事では従来、
主に、母親の生育歴に注目
し、児童虐待との関係を考え
てきました。ところが、
今の若い世代特有の特徴と
して社会で活躍する有能な
女性が、子育ての壁に直面
しています。小さいころか
ら自己実現と言われてきて、
自分らしくどう生きるかが
キーワードだったのが、子
育ては子どものペース、自
分の思い通りにはいきませ
ん。このギャップが大きい
のではないのでしょうか。

●大切な
地域のつながり
中村 まずは大人同士のつ
ながりが大切ですね。「子ど
もは未来人」という素敵な
言葉を残されています。自
分が大きくなった時、家庭
を持ちたいなど自然に思え
るようになるためには、大
人や家庭が輝いていなくれ
ばなりません。子どもたち
の今の姿は、未来の家庭、
未来の地域の姿であり、私
たちには、その未来に対す
る責任があると思います。
小中学校のPTA活動の中
で、保護者がつながり、
お互いに支え合い、子ども
に関わり合っています。し
かし、本当に光を当てない
といけないのは、学校に入
るまでの子育て支援であり、
できれば、マタニティの時
から、支え合う仕組みを作
っていききたいものです。
私たちは一世代かのぼれ
ば親が二人いて、二世代か
のぼれば祖父母含めて六人、
二六代前まで数えると、な
んと一億三〇〇万人を超
えます。この命のつながり

地域の中で支え合う「つながり」が大切



はとても大切で、みんなが
どこかでつながって、今、
同じ時代に、同じ市民とし
て生活しているわけです。
塩崎 つながりは、人間社
会の基本ですね。志や目的
を共有し、共に頑張ろう、
子どもたちを育てようとい
う前向きなつながりが大切
なのです。

●命を学ぶ「生教育」を
塩崎 ミニ集会でお母さん
方から、「学校では性教育
はやっていないが、生きる方
の生教育はない。子どもを
抱っこしたり、若いお母さ
んから子どもを産んでの感
想を聞くなどすれば、子ど
もたちが生きることを真剣
に考えるきっかけになる」と
言われ、「なるほど」と思い
ました。

1人当たりの子ども予算はお年寄り予算の10分の1!!

●子育ての
楽しさ、しんどさ
的なプランを提案し、二〇
〇七年に、「子育て家族を
応援する日本重点戦略」が
策定されました。
今、児童虐待が急増して
いますが、実は養護施設の
入所児童の半数以上が、親
の暴力を受け、親がいても
家庭に返せないという極め
て深刻な状況にあります。
最も信頼できるはずの家族
が、崩壊しつつある現在、社
会全体で子育てを考え、応援
していくことがいかに大切
かということだと思います。
子どもたちが未来に夢を
持てるように育てていくのは
私たちの責任です。ところが
例えば、国の子ども関連の
予算は高齢者関連と比べて
非常に少ないのが実態です。
子ども関連約三兆円に対し、
高齢者関連はなんと二十倍
の約六二兆円、一人当たり
でも、二十万円に対して二
三〇万円と十倍以上の開き
があります。
果たしてこれでもいいのか、
喜んで子どもを産み、育て
てもらい、子どもに元気に
育ってもらうために何がで
きるのか、みんな考えて
いかなければなりません。

小淵 子育ては楽しいこと、
大変なことがたくさんあり
ます。私は主人と子どもの
三人暮らし、昼間は保育園
に預け、お迎えの大抵は私
で、時には主人、休日の勤
務時だけは母にお願いする
というごく一般的な子育て
家庭です。
常に結果を出すことが求
められ、それで評価される
仕事が続けてきましたから、
結果が出ない、評価されな
い、なんだかわからず泣い
ている子どもを目の前にし
て、正直、育児ノイローゼ
にかかり、本当に辛い時期
がありました。
でも、それを乗り越える
と、これほど感動に満ち、
かけがえのない経験はない
と思えるようになり、今は
喜びを持って接しています。
完璧ではなくても、いつも
笑顔の母親でいようと思っ
ますし、皆さんにも、子育
てには大変なことも多いが、
同時にこんな素晴らしい喜
びもないという前向きな発
信をしていきたいと考えて
います。

友川 愛媛では「生教育」の取り組みが少ないようですが、全国的には小学校の時から、赤ちゃんと触れ合う体験を教育の一環として取り入れているところがあり、子どもが自分の生まれた意味を考えるようになったなど、いろんな成果が報告されています。

こんな風に自分も泣き叫んでいた時期があり、親はそれを受け止めてくれた、そんな気がつきが親への感謝やつながりに対する思いとなるという意味でも、親子関係を考える教育、命の教育の教材として効果が期待できます。

男女の分け隔てなく、子どものあやし方を学ぶためにも、中学校ごろから赤ちゃんと接する中で体験的に子育てを学習することもいいのではないのでしょうか。

●楽しい子育て

友川 子育てが楽しいと思える条件として三つあると思います。

一つは、パートナーである男性の反応です。妊娠がわかった時、パートナーがどのような反応をしたかは、その後のものすごい影響を与えます。

子どもは、親の思い通りにはなかなかありませんが、妊娠時に夫から肯定的な態度をもらったお母さんはその後、子どもへの愛着からプラスの方向にとらえる傾向が強いという結果が出ています。お父さん教育も、そこら辺から始めることが重要です。

二つ目は、小さい頃きょうだいや近所の赤ちゃんと触れた育児体験、これが子育ては楽しいという気持ちにプラスに働くようです。

もう一つは、同年齢の子どもを持つ子育て仲間が在りです。親同士のつながりはとても重要で、これをいかに強めていくのが大きな課題です。

●社会システムを変える

小淵 お腹の中にいる時から親が子どもとどう向き合うか、それによって、出産後の子育てのしんどさが全然違います。お母さんたちには、胎児の時からコミュニケーションをとることが大切ですよ、また、お父さんに対しては、夫の反応で産後のお母さんの気持ちが大きく変わりますよ、もっと積極的に情報発信し

ないといけませんね。社会のシステムも変えていく必要もあります。まだまだ、男性が働きながら、子育てなどの時間を十分に持てる労働環境にありません。ところが、アンケートでは、育児休暇を取りたいと思う男性が三割もいます。実際の休暇取得は一・五%ですが、三割という数字には希望があると思います。また、過去一年で立会出席したお父さんが半分に減りました。私の母親の時代には考えられなかったそうです。もう少し男性の意識、生活プロセスが変わりつつあります。

今、育児休業法の改正に取り組んでいます。男性であれ女性であれ、育児休暇を取りながら所得がきちんと確保されるような社会システムを構築したいと考えています。

塩崎 大臣が言われるように、産業界も巻き込みながら、お父さん、お母さんが安心して子育てしながら働ける社会の実現に向け、様々な法律制度を整備していくことは、政治の役割です。と同時に、地域社会として、お母さんを中心に子育て、教育でつながり、支え



友川 礼氏

も非公開という風に、ネットワーク形成の要素が一つ欠け、二つ欠けていく中、どうやって子育てのつながりを再生していったらよいのでしょうか。

●地域子育てサポート

友川 今、松山市内には子育て支援や障害児福祉等のNPOがたくさんあります。それらが横のつながりを持つことで、総合的な子どもに関するサポート体制ができてきつつあります。同じ目標、同じレベルの市民活動の中で支え合う動きが活発化してきました。また、松山には、驚くほど多くの公的な子育て支援のサービスや機関があります。

ただ問題は、そうしたサポート体制やサービスの存在をお母さんが知らず、利用率も極めて低いということです。

そこで、私が提唱しているのは、携帯電話を利用したサービスメニューの配信システムです。携帯電話という情報ツールを使い、活動団体や市民サービスの情報を発信できれば、身の周りにおける折角の社会資源をもっと有効活用できると思います。

塩崎 獅子舞保存会など、子どもに伝統文化を継承しようとしている団体も各地にあります。子どもを巻き込んだ多様な組織、団体が、間接的であれ、子育

てをサポートする役割を果たしてくれるのではないのでしょうか。

●子どもは「ゴージャス!!」

小淵 イギリスに行った私の友人から、向こうでは子育てが楽になるという話を聞き、それは制度的なものかと尋ねると、そうではないんです。子どもを連れて歩いてみると、道行く人が何人も、子どもを見ては「ゴージャス」と声をかけてくれるそうです。すると、もやもやが吹き飛び、明るい気持ちで家路につける、だから、子育てが楽になると言っていました。

子育て支援は、みんなが何か特別なことをしなければならぬというものではありません。町で母子連れを見かけたら、「ゴージャス」と言わないまでも、「かわいね」と、そんな一言を

地域社会に子育て支援のネットワーク構築を

お父さんも子育てできる社会システムを築く



けてくれれば、くじけそうなお母さんにまた勇気がわいてきます。さりげない優しい声掛け、今日はそれをおきたいと思います。

けば、それは子どもたちの心にストックされ、大人になった時、自分たちもい家庭を作りたい、いろんなつながりを大切にしよう、自然に思えるようになるのではないのでしょうか。

私は小学生のころ、隣のおばあちゃんと仲良しでした。うちはテレビも中学校になるまで買ってくれませんでした。隣のオバアちゃんが大のブレスファンで、よく力道山の試合と一緒に見せてもらいました。そんな夏のある日、おばあちゃんの広い屋敷にセミがいっぱいいたので、勝手に入ってセミを獲っていました。すると、あの優しいおばあちゃんが私を見つけて、「こらー、勝手に人の家に入っ

で叱られたんです。その時身にしみて一つのルールを教わることができました。考えてみると、親以外の人が学ぶことはたくさんあります。私は妻の両親と同居しており、子どもたちはおじいちゃん、おばあちゃんからいろんなことを学んだと思います。三世代で暮らせてとても有難かったです。そんな経験から、私は昨年、三世代同居を促進するため、優遇税制の導入を提案しています。



中村 和憲氏

●新たな一歩を

小淵 私の母の世代は、女性が勉強することさえ反対されたのに、今は思い切り勉強ができて大学にも行け、その後は、結婚、仕事など、いろんな選択肢があります。道を切り開いてくれたのは、私たちの前を歩いてきた大先輩の女性たちです。それをしっかりと踏まえ、私も仕事と子育てに頑張っていきます。女性が頑張ってきた歩みに新たな一歩を刻むことができれば、次の世代の女性が、もっと楽しく仕事と子育て

ができるようになると思うからです。

塩崎 先生は、私が心から尊敬する政治家です。今、政治や自民党に厳しい声があることは十分承知していますが、この愛媛において、皆さんの声をきちんと国政に届け、地域の代表として頑張っていただけるのは、塩崎先生を置いてほかにいません。塩崎先生がすごいのは、皆さんの声を聞いて、何をどう変えるのか、どんな法律・制度を作ればいいのか、頭の中で整理、組立をされ、それを具体的な政策に結びつける



孫「泰正」(長男の第一子)と楽しいひととき。
たいせい

私たちは「子育て応援団」

ことができるようになります。必ず皆さんの信頼、期待に込めていただける政治家であることをお約束いたします。
塩崎 私も子どもが二人いて、子育てを楽しませてもらいましたが、今、肩車した子どもが親になる姿を見て、感慨深いものがあります。振り返ると、私たち夫婦が四歳、二歳の子どもを連れてアメリカに留学した時、大学の家族寮の一階は、フロアすべてが保育園でした。子連れで遊びに行っても、そこには託児所がありました。至るところに安心して預けられる場所があり、子どもがどこにいても当たり前の社会でした。「ゴージャス」とは言われませんが、たが、みんながアメリカ流の褒め言葉を子どもたちに投げかけてくれました。

確かに財源は厳しいですが、日本より出生率の高いフランスは、子育て支援に十兆円のお金をかけています。そのすべてが税金というわけではなく、企業の貢献も結構あり、社会全体で支え合い、子育てをサポートしているわけです。

日本もみんなが一緒に子育てできる楽しさ、喜びを感じながら、子どもの笑顔が満開の明るい元気な社会にしていきたいものです。そのためには、児童クラブや一時保育、休日保育など、様々な支援体制の拡充を図るとともに、お母さんを応援するネットワークを活用する必要があり、赤ちゃんと接する「生教育」等のプログラムの導入も有効だというお話も頂きました。



孫「彩代」(二男の第一子)が誕生!!
さよ



衆議院議員 元内閣官房長官 塩崎 恭久

松山事務所 / 〒790-0003 愛媛県松山市三番町4丁目7番19号

TEL.089(941)4843 FAX.089(941)4894

国会事務所 / 〒100-8981 東京都千代田区永田町2丁目2番1号 衆議院第一議員会館619号

TEL.03(3508)7189 FAX.03(3508)3619

URL ▶ <http://www.y-shiozaki.or.jp> E-mail ▶ shiozaki@y-shiozaki.or.jp



塩崎やすひさ
モバイルサイト